

若宮

若宮は、鶴岡八幡宮で本殿に次ぐ重要な社です。若宮という言葉は、本宮の主神の子である御子神や主祭神に特別な関わりのある神を祀った神社を表すもので、ここに祀られた4人の祭神は、武士階級や国家の守護神であり本宮に祀られている八幡神、つまり応神天皇と親族関係があります。いずれも古代日本で神格化されている人物である、応神天皇の皇后仲姫命、その皇子仁徳天皇、仁徳天皇の皇后磐之媛命、そしてその嫡男履中天皇が、その4人の祭神です。この上下両宮の神社の並びは、火災により地上のものが焼失された後に鶴岡八幡宮が再建された1191年からのものです。

それ以前は、本殿へと続く石段の足元、現在の大石段の下付近に本宮があるのみでした。現在の若宮の建物は1624年に完成したもので、国の重要文化財に指定されています。本殿と同様、流権現造の一つ屋根の下に本殿、幣殿、拝殿が収まっています。